

平成28年度 財務書類の公表

恩納村

地方公会計制度のはじまり



これまでの地方自治体の会計は、家計簿のような「現金主義」を採用していました。「現金主義」とは、定められた予算の中で現金を支出するため、予算をまとめやすく、現金の流れのみを把握していたのです。

しかし、「現金主義」では、資産・負債などのストック情報や減価償却費などのフロー情報が見えてきません。

全ての資産や負債なども把握するため「発生主義」の考え方が導入されました。それが「地方公会計制度」の始まりです。

きっかけは現実に起こった自治体の財政破綻。住民への行政サービスの低下を防ぐため、これまでに地方自治体の資産・債務管理に関する公会計整備推進の法律や方針が示されてきました。

国は地方公共団体に対し、「資産・債務管理」「将来の施設の更新維持管理費の把握」を強く求めています。平成18年6月2日に「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律（行革推進法）」が施行され、同年8月31日に総務事務次官通知にて発生主義の活用及び複式簿記の考え方の導入を図り、**貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書**の4表の整備が求められました。

また、公共施設やインフラ設備の老朽化が進行し、合併自治体の交付税優遇措置の期限切れなどによる歳入総額の減少も重なって、それらの更新・維持管理といった公共施設のマネジメントの在り方が喫緊の課題となっています。

このような状況下において、恩納村は国の地方公会計制度を導入し、財務書類の作成を行い健全な財政運営に取り組んでまいります。

ストック情報

資産や負債などの一定時点の状態を表します。

フロー情報

人件費や物件費などの一定期間の実績の情報を表します。



財務書類とは

予算書や決算書などの今までの公会計とは別に、恩納村の財務状況をあらわす新たな取り組みとして、次の財務書類を作成しました。

- | | | |
|-------------|-------|-----------------------|
| ①「貸借対照表」 | | 資産や負債の状況などを表す |
| ②「行政コスト計算書」 | | 人件費や減価償却費などの経費を表す |
| ③「純資産変動計算書」 | | 純資産の1年間の変動内容を表す |
| ④「資金収支計算書」 | | 資金収支の状況を性質別に3つの区分にて表す |

以上の4表を財務書類と呼び、財務状況確認のための重要な資料となります。

貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表（バランスシート）は、会計年度末に恩納村が保有している資産と、その資産を取得するために使ったお金の調達方法を表し、現金の収支に注目していた従来の決算書では表示することができなかった恩納村の財産や負債など、これまでの資産形成の結果を知ることができます。

道路や学校など
村が保有する公
共施設の総額。

特定の目的で積
み立てた基金や
出資金などの総
額。

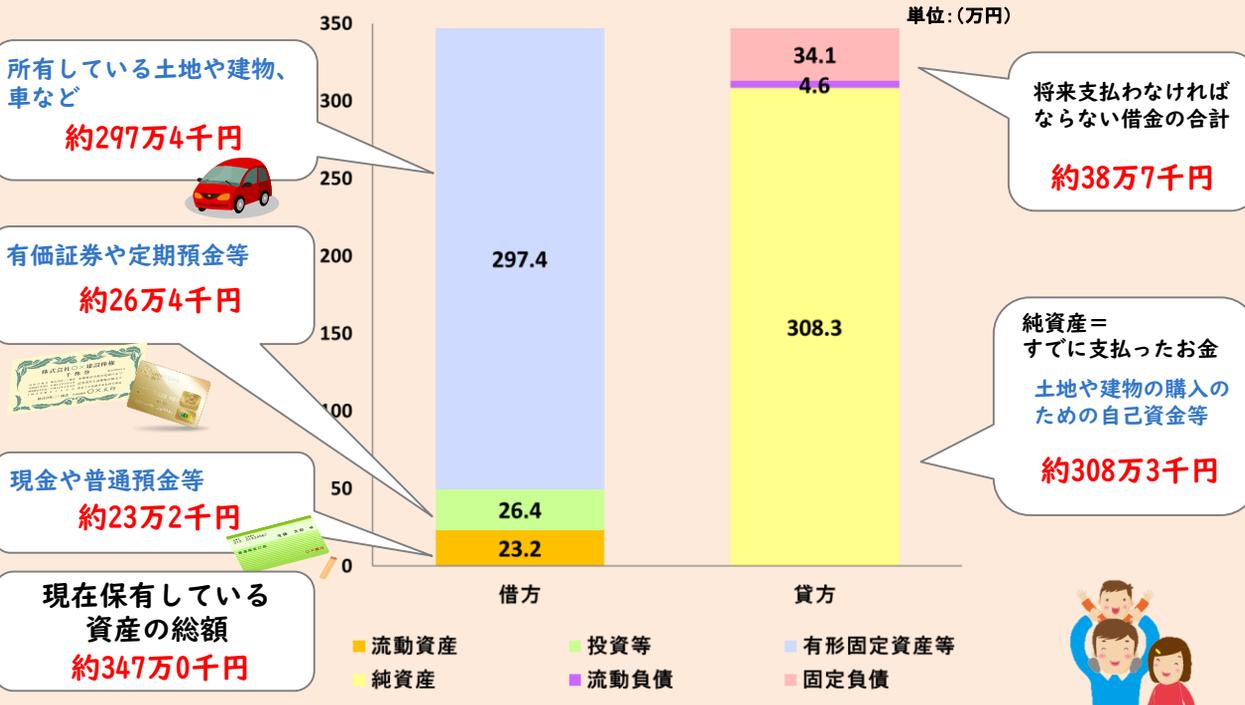
現金・預金と現
金化しやすい地
方税などの未収
金の総額。

借方		貸方	
【資産の部】		【負債の部】	
有形固定資産	32,654,019	固定負債	3,744,375
無形固定資産	670	地方債	3,395,657
		退職手当引当金	348,718
投資等	2,901,325	その他	0
投資及び出資金	222,043		
基金等	2,519,498	流動負債	507,806
その他	159,784	1年内償還予定地方債	389,846
		賞与引当金	66,880
流動資産	2,544,922	その他	51,080
現金・預金	342,047	負債合計	4,252,181
未収金	25,443		
基金	2,178,659	【純資産の部】	
その他	△ 1,227	純資産合計	33,848,755
資産合計	38,100,936	負債+純資産合計	38,100,936

地方債の残高や退
職手当などの総額。
将来世代が負担す
る金額。

道路や学校等の整
備の財源として受
けた国や県からの
補助金や地方税な
どの総額。
これまでの世代が
負担してきた金額。

貸借対照表を住民1人あたりに換算すると・・・



～貸借対照表の主な分析指標～

流動比率

翌年度支払い予定の負債額に対して、すぐに支払いに充てることのできる現金・預金などのぐらにあるのかを示す指標です。（流動比率＝流動資産÷流動負債）

恩納村の流動比率 = 501.2%

純資産比率

現在所有している資産について、現世代でどのくらい既に支払い済みかを示す指標です。

（純資産比率＝純資産÷資産総額）

恩納村の純資産比率 = 88.8%

流動比率・純資産比率が高いことから、将来負担が低くかつ支払い能力が十分あることがうかがえ、財務状況は安定していると言えます。

恩納村 平成28年度決算の財務書類（一般会計等）



行政コスト計算書

行政サービスを提供する際に発生する支出のうち、資産の取得（土地や建物の購入等）にかからない支出と、行政サービスの対価として得られた収入を計上しています。純行政コストがマイナスになっていますが、これは行政コスト計算書上の収入に、行政サービスの直接的な収入のみを計上しているためです。

単位：(千円)

区分	金額
経常費用	6,418,594
人にかかるコスト	1,381,969
物にかかるコスト	2,163,754
その他のコスト	66,783
移転支出的なコスト	2,806,088
経常収益	2,167,382
使用料・手数料	173,821
その他	1,993,561
純経常行政コスト	△ 4,251,212
臨時損失	3,730
臨時利益	163
純行政コスト	△ 4,254,779

職員給与のほかに、賞与引当金や退職手当引当金の繰入額が計上されます。

物件費のほかに、施設の維持補修費や減価償却費が計上されます。

移転支出的なコストには社会保障の給付や他会計への繰出金等が計上されます。

その他のコストには支払利息などが計上されます。

行政サービスの直接の対価である使用料・手数料と財産収入を経常収益として計上します。



純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部の増加要因と減少要因を計上し、純資産が1年間でどのように変動したのかを示しています。

純資産の増加要因には、行政サービスの対価として支払われる以外の収入（税金や国・県からの補助金等）があり、減少要因には、行政コスト計算書で算出される純行政コストや評価差額の減少分が計上されます。

単位：(千円)

前年度末の純資産残高	30,995,537
純行政コスト	△ 4,254,779
財源	6,131,978
資産評価差額	2,685
無償所管換等	973,334
その他	0
本年度末の純資産残高	33,848,755

純資産が昨年度よりも増加した場合は、負債の増加より資産の増加のほうが多かったことを示しています。逆に純資産が減少した場合は、行政コストが多くかかっていたり、資産の増加より負債の増加が多かったことを示しています。

資金収支計算書

貸借対照表の現金が1年間でどのように変動したのかを示しています。現金の使いみちによって3つの区分に分け、どのような行政活動にいくら使ったのかが分かります。

単位：(千円)

前年度末の資金残高	327,806
業務活動収支	853,270
投資活動収支	△ 659,724
財務活動収支	△ 230,385
本年度の資金変動額	△ 36,839
本年度末の資金残高	290,967

前年度末歳計外現金残高	48,803
本年度歳計外現金増減額	2,277
本年度末歳計外現金残高	51,080
本年度末現金預金残高	342,047

業務活動収支

行政サービスの提供で必要となる人件費や物件費などの支出と税金などによる収入が計上されます。

投資活動収支

道路や施設の取得のために支出した金額とその財源となった補助金などが計上されています。

財務活動収支

支出には地方債の償還額が、収入には地方債発行による収入等が計上されます。